

学校教育教員養成課程

●課程の教育理念と教育目的

学校教育教員養成課程は、すぐれた学校教員の養成を目的とし、「学校教育基礎コース」と「学校教育実践コース」から成ります。いずれも教員免許状の取得のために共通に履修すべき授業科目のほかに、「学校教育基礎コース」では、教職にとって基礎的な素養となる教育、教育心理、幼年教育の関連諸科目を、「学校教育実践コース」では、得意分野の形成に向けて中学校各教科の専門科目及び教科指導法をそれぞれ重点的に履修します。また、カリキュラムには初年次からの各種の実習と多段階の「省察」の機会が組み込まれ、「振り返り」を媒介として理論と実践の有機的統合を図り、教員としての実践的指導力と豊かな人間性を培う工夫がなされています。

なお、希望者には保育士資格の取得も可能です。また、保健体育専修では、健康運動指導士の受験資格を取得できます。

●課程のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

<思考・判断>

2. 学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 子どもの発達に応じた授業・保育の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。

<関心・意欲>

4. 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる。

<態度>

5. 教職に対する使命感や責任感を身につけ、教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●課程のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解・実技能力>

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。
 - ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
 - ・スポーツ、音楽、造形などに関して、修学に必要な実技能力を有している。

＜思考・判断＞

2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

＜技能・表現＞

3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

＜関心・意欲＞

4. 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。

＜態度＞

5. 積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

●課程のカリキュラム

カリキュラムの概要

本課程では全員に小学校教諭一種免許状の取得が求められています。そのため、全員が教育や教育心理、小学校各教科の教育法などに関する所定の「教職科目」、小学校教科科目、教育実習を履修し、介護等体験を行います。それに加えて、「学校教育基礎コース」では、教育学、教育心理学、幼年教育の関連諸科目を、「学校教育実践コース」では、中学校の各教科に対応した「専修」に分かれ、それぞれ中学校教諭の免許状を取得すべく各教科専門科目及び教科指導法を重点的に履修します。

このほか、選択科目として、1年次から各種の実習、それに即応した省察科目、学生の自主性を尊重した地域連携実習、現代的諸課題に応じた科目などが多様に用意されています。

これらにより、学生は理論を学び、実践を体験し、他者との交流を通じた省察によって自らを振り返り、関心を醸成し、さらに学びを深め、教師としての基本的力量を形成していきます。